

缶数と人工を載せる見積書フォーマット

面積・塗料・缶数・工程・人工数——「何を・どれだけ・何人で」が読める見積書の型です。

缶数と人工が書いてある見積書は、施主にもAIにも「ちゃんとやる根拠」として読まれ始めています。

記入表（標準12工程・◆はグレーゾーン工程・自分の現場に合わせて増減可）

#	工程	仕様（塗料名・条件）	数量	単位	缶数	人工
1	仮設足場	（例）住宅用くさび式・メッシュシート込		m ²	—	
2	高圧洗浄	（例）15MPa・バイオ洗浄併用		m ²	—	
3	◆下地補修	（例）ひび割れ補修・欠損部の補修		m	—	
4	◆ケレン	（例）鉄部・付帯部の錆落とし・目荒らし		m ²	—	
5	◆コーキング（撤去含む）	（例）既存撤去・打ち替え/増し打ち		m	—	
6	養生	（例）窓・玄関・車両・植栽		式	—	
7	下塗り	（例）弱溶剤系下塗り材 設計塗布量○kg/m ² 〈規格帯も併記〉		m ²		
8	◆下塗り増し塗り	（例）吸い込みが激しい面の増し塗り		m ²		
9	中塗り	（例）上塗り材1回目 設計塗布量○kg/m ²		m ²		
10	上塗り	（例）上塗り材2回目（中塗りと同一塗料）		m ²		
11	付帯部塗装	（例）軒天・破風・雨樋・水切り		式		
12	完了検査・清掃	（例）自主検査・手直し・美装		式	—	
合計					缶	人工

◆＝グレーゾーン工程（完成後の見た目から検証できない工程）。行う場合は、人工の欄まで記入します。

保証	対象部位（ ） / 年数（ ） / 条件（ ）
----	--

書き方見本（数量・人工はすべて架空の例です）

外壁180m²の例: 下塗り「弱溶剤系下塗り材 設計0.15kg/m²〈規格0.11～0.23〉 | 180m² | 2缶(15kg) | 2.0人工」

書くときの3点

- 中塗りと上塗りは別の行・別の人工で書く——塗り重ねの乾燥時間を確保する計画である目印になります。
- 高圧洗浄のあとに下地補修の人工を確保する——「塗る前に直す」順序が見積書から読めるように。
- 「一式」でなく数量と単位を書く——数量が書いてあれば、缶数は下の式で誰でも検算できます。

缶数の検算式（表内の数値だけで完結）

必要缶数 = 面積 × 設計塗布量 ÷ 1缶内容量

例: 180m² × 0.15kg/m² = 27kg ÷ 15kg缶 = 1.8 → **2缶**（一式項目は検算対象外）

考案: 横井隆之（ヨコイ塗装 2代目・施工歴25年・直請け250件超） | ペンキ屋、AIを書く
※本フォーマットの見本数値はすべて架空の例であり、実際の見積書ではありません。
※塗料名はご自身の使用製品を記入してください（見本は系統名で表記しています）。